

平成 2 2 年度決算の状況

水道事業会計

(1) 総括事項

本市の水道事業は、給水人口の減少や景気の低迷及び節水意識の定着等が影響し、使用水量は平成6年をピークとして年々減少傾向にあり、料金収入も同様に減収となってきています。

このような状況下で、歳出面においては、経費の節減等による経営の合理化に努める一方、より安全で良質な水の安定供給を図るため、緩速ろ過池による浄水処理や塩素消毒に加え、クリプトスポリジウム対策として紫外線処理設備を導入しました。また、歳入面においても積極的な収納確保に努めた結果、今年度も利益を計上することができました。

しかし、今後の水道事業の財政運営は、一段と厳しいものになっていくことが想定されています。

そうしたことから、水道事業を取り巻く環境の変化に柔軟に対応すべく、現状の分析・評価による課題・問題の抽出を行い、将来の水道事業のあるべき姿や目標を設定し、それを実現するための具体的な施策を示した「大竹市水道ビジョン」を策定しました。

今後の課題としては、施設の老朽化、耐震性などが懸念される状況にあることから、「大竹市水道ビジョン」に基づいた施策を計画的・効率的に推進することで施設の更新、耐震化を推し進め、水道事業のあるべき姿である「いつでも安全で安定した水の供給」の実現に向けて取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、3,554,380 m³（1日平均9,738 m³）で、前年度と比較して20,126 m³（0.6%）の減少となりました。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事等に総額で111,212,517円（うち消費税及び地方消費税4,824,686円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・紫外線消毒装置設置工事（平成21・22年度継続工事）	37,380,000円
・御園1・2丁目地内配水管改良工事(その2)(平成23年度繰越工事)	13,650,000円
・新町2・3丁目地内配水管改良工事	10,483,200円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成22年度の収益的収支は、収入総額504,826,707円、支出総額475,380,622円で、差引き29,446,085円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	504,826,707円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	475,380,622円
	差引利益額	29,446,085円
資本的収支	収入総額	65,743,351円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	163,316,935円
	差引不足額	97,573,584円

資本的収支の不足額97,573,584円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額5,608,904円、過年度分損益勘定留保資金35,964,680円、建設改良積立金56,000,000円で補てんしました。

工業用水道事業会計

(1) 総括事項

第2期工業用水道事業の企業債償還利息及び減価償却費が財政を大きく圧迫していましたが、平成20年度から追加の給水契約を締結し、財政面の改善が進んだことで昨年度から収支が好転し、本年度も利益を確保することができました。

さらには、当面の資金不足を解消するため、資本費平準化債等の起債を発行することにより、起債償還額の平準化を図りつつ、経営の健全化に努めています。

今後において老朽化した施設の改築更新が必要となってくるため、計画的な施設改良を実施し企業への安定した水の供給確保を行うとともに、本市の産業経済の活性化に努めてまいります。

また、平成23年4月1日より本市の工業用水道事業を統合することについて、経済産業大臣より承認を得ています。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、15,409,293^m³（1日平均 42,217^m³）で、前年度と比較して1,095,525^m³（7.7%）の増加となりました。

(イ) 建設改良

該当事項なし

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成22年度の収益的収支は、収入総額 547,156,817円、支出総額 493,543,110円で、差引き 53,613,707円の純利益となりました。

なお営業外費用中、企業債利息147,672,549円の財源にあてるため、未売水企業債利息債47,400,000円を借り入れました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	547,156,817円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	493,543,110円
	差引利益額	53,613,707円
資本的収支	収入総額	181,616,000円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	379,244,963円
	差引不足額	197,628,963円

資本的収支の不足額 197,628,963円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 459,641円、過年度分損益勘定留保資金 175,352,105円、当年度分損益勘定留保資金 21,817,217円で補てんしました。

公共下水道事業会計

(1) 総括事項

公共下水道は住民が安心して快適な生活を営むうえで必要不可欠なものであり、その良好な生活環境の維持と公共用水域の水質保全を図るために、施設の改築更新や維持管理などを行いながら事業運営を行っています。

また、本市の下水道整備は地方の小都市としては比較的早くから事業展開を行ってきたことで、市街化区域内においてはほぼ整備が終わったものとなっています。

その反面で、施設の老朽化による改築更新費の増大や人口が年々減少していることで、下水道経営は非常に厳しい状況となっていますが、平成22年度から包括的民間委託の導入など経費の削減や効率的な運営に努めた結果、今年度も利益を確保することができました。

今後も安定した事業経営を行うために、さらなる経営状況の改善に努めてまいります。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、3,239,734 m^3 （1日平均 8,876 m^3 ）で、和木町からの受入水量は、1,650,660 m^3 （1日平均 4,522 m^3 ）になりました。

本市では、区域内水洗化率99.6%を達成し、人口普及率も93.8%であり、全国的に見ても高い水準を維持しています。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事費に総額で 390,443,126円（うち消費税及び地方消費税 18,019,478円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・合流改善雨水滞水池設置（躯体）工事	145,497,000円
・合流改善雨水滞水池設置（配管）工事	65,942,100円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成22年度の収益的収支は、収入総額 794,852,701円、支出総額 764,259,413円で、差引き 30,593,288円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	794,852,701円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	764,259,413円
	差引利益額	30,593,288円

資本的収支	収入総額	706,870,538円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	1,003,981,387円
	差引不足額	297,110,849円

資本的収支の不足額 297,110,849円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 8,388,011円、過年度分損益勘定留保資金 111,459,619円、当年度分損益勘定留保資金 177,263,219円で補てんしました。